

鳥取県福祉研究学会第12回研究発表会 発表要旨等一覧 H31.2.5現在

口述発表（会場：鳥取看護大学2階K-201～206）

No.	分野	分野No.	分科会場	発表時間	発表テーマ	発表要旨	研究代表者氏名	研究代表者所属機関・団体	共同研究者
1	【第1分科会】 高齢者福祉 (施設系A)	①	2階 K-201	10:30～ 10:50	新調理システム導入とサービス向上への挑戦	平成22年から嚥下調整食の提供を開始し、誤嚥予防や食事満足度向上に努めてきたが、一方で様々な課題が浮かび上がる事となった。 そこで、新調理システムに着目し挑戦する事で、課題解決に向けて取り組み、サービス向上を目指した6年間について報告する。	小山 彰子	社福) 鳥取福祉会 特別養護老人ホーム若葉台	岡本 美紀 霜村 桂子
2	【第1分科会】 高齢者福祉 (施設系A)	②	2階 K-201	10:50～ 11:10	仲間づくりをしたことで生活維持・向上した一事例	平成30年5月頃よりBPSD(妄想・興奮・他)が随所に観られ、併せて眩暈の訴えが急増していた。センター方式B-3・D-4シートを活用して原因を探した結果、孤独、寂しさが症状の現れた要因の1つと考え、仲間作りに取り組んだことで生活の維持・向上に繋がった一事例を報告する。	藤田 直輝	社福) こうほうえん 特定施設入居者生活介護 新いなば幸朋苑	奥田 正彦
3	【第1分科会】 高齢者福祉 (施設系A)	③	2階 K-201	11:10～ 11:30	働きやすい職場って？ ～ストレス調査を行って～	施設の介護職員が日頃抱えている肉体的・精神的なストレスを軽減、改善するために、「職員が働きやすい環境作り」をテーマに自分たちでできることをチームで取り組んだ。	田中 信一	社福) あすなる会 白兔あすなる	博田 智美 中村 拓哉
4	【第1分科会】 高齢者福祉 (施設系A)	④	2階 K-201	11:30～ 11:50	「共有」で変わるこれからの人材育成と展望 —認知症介護実践リーダー研修新カリキュラム企画実行の成果—	平成29年度より認知症介護実践リーダー研修が全国統一された。共通のシラバスを基に企画を進めた結果、有効な人材育成の方法が確認できたので研修の進め方と育成ポイントについて報告する。	矢間やすみ	鳥取県認知症介護指導者ネットワーク	坂口 加奈江 阿部 一志 佐平 登志美 崎上 麻衣子 福永 貴祐
5	【第1分科会】 高齢者福祉 (施設系A)	⑤	2階 K-201	11:50～ 12:10	あなたの楽しみ探します ～Happy Life Enjoy Home～	日中、ぼんやりと過ごすことが多い日々。何か利用者が楽しみになるような事はないかと思案していた。そんな時小集団活動に出会う。利用者の楽しみを探り、生きがいを感じてもらうことは出来るのか。活動の経過と成果を報告する。	谷本 由香里	社福) やず 介護老人保健施設すこやか	福田 純斗 國本 あずさ
6	【第1分科会】 高齢者福祉 (施設系A)	⑥	2階 K-201	13:00～ 13:20	スタッフの意識を改革し、排泄ケアの向上を目指して～利用者の睡眠確保と業務負担の改善～	近年、夜間排泄ケアによる睡眠障害が問題視されている。そこで、当施設では夜間睡眠の質の向上と介護者の負担軽減を目的に排泄ケアのあり方を試みたので、その取り組みの過程を報告する。 [方法]①排尿測定、②尿測定を基準にオムツの検討、③個別の当て方の検討④排便コントロール、⑤オムツの種類や品質の検討、⑥定期的な皮膚の観察と体位変換、陰部洗浄⑦スタッフの認識・技術の向上 [実際効果]深夜帯のオムツ交換を削減できたことで中途覚醒が減少、大声等の不穏になる利用者が減少し睡眠確保に繋がった。それに伴い、日中の生活リズムが整い、昼夜逆転の減少や日中の覚醒度の向上が見られた。また、交換時間の短縮によりセンサーコール等への早期の対応が可能となりヒヤリハットが減少した。 [おわりに]利用者に合わせて排泄ケアを行う事で夜間不眠に伴う睡眠障害を削減し日常生活意欲の増加と安定を得ることができた。今後は在宅復帰に向けたケアの継続と更なる検討に努めていきたい。	秋吉 奨二	鳥取医療生協 鹿野温泉病院 介護医療院レインボーしかの	高砂 啓三 谷口 彰子 川本 千賀子 佐々木 春美
7	【第1分科会】 高齢者福祉 (施設系A)	⑦	2階 K-201	13:20～ 13:40	本人の思いを形に残すための取り組み	今回、パーキンソン病の患者K氏を受け持つことになった。パーキンソン病の看護、介護としては、徐々に日常生活に困難が生じ患者は不安を感じて抑うつ的になることもある為患者心理を理解して接する事が大切であるとされている。日常生活の介助以外にも個別の関わりを持ちK氏のためにできる事を考えた。今回K氏と共に取り組んだことをここに報告する。	山本 翔	社医) 明和会医療福祉センター ウエルフェア北園渡辺病院	若林 康司

No.	分野	分野 No.	分科会場	発表時間	発表テーマ	発表要旨	研究代表者 氏名	研究代表者 所属機関・団体	共同研究者
8	【第2分科会】 高齢者福祉 (施設系B)	⑧	2階 K-206	10:30～ 10:50	認知症専門棟で行う在宅復 帰支援	「介護老人保健施設」の機能・役割の一つに「在宅復帰支援」があるが認知症利用者の在宅復帰は難しい現状がある。認知症専門棟で在宅復帰に取り組む中で認知症利用者の在宅復帰支援は現場から多職種に発信する情報の共有と連携、生活の中で行っていく自立支援が重要であることがわかった。	宮本 俊秀	社福) 敬仁会 介護老人保健施設ル・サンテリ オン	岩田 みゆき 大森 央絵 井上 陽子 北村 祐子
9	【第2分科会】 高齢者福祉 (施設系B)	⑨	2階 K-206	10:50～ 11:10	「思いを言葉で伝えたい」 言葉を引き出すコミュニ ケーション	構音障害のある利用者が、スムーズに言葉を出せるように、発音訓練や嚥下機能・舌筋力・呼吸機能の訓練を行い、口腔機能の向上に向けた取り組みの報告	鈴木 美枝	社福) あすなる会 鳥取市介護老人保健施設やすら ぎ	園田 宏美 高橋 美智子 井上 泰樹 杉本 悠 高濱 嶺 小川 暢子 山根
10	【第2分科会】 高齢者福祉 (施設系B)	⑩	2階 K-206	11:10～ 11:30	排泄自立に向けたおむつ交 換 ～排泄リハケア体操を取り 入れて～	テープ型紙おむつからリハビリパンツ型紙おむつへ移行する為に、排泄リハケア体操と排泄動作の声掛けの統一をして、リハビリパンツ型紙おむつへ移行できるのかを検証した。	長尾 洋一	(医) 昌平会 大山リハビリテーション病院 介護医療院はじめ	西村 玲子 細田 由香
11	【第2分科会】 高齢者福祉 (施設系B)	⑪	2階 K-206	11:30～ 11:50	水分摂取が生活に及ぼす影 響について	水分摂取量が排泄、食事、運動と密接な関係があり、身体に良い影響を及ぼし、認知症の症状が改善すると言われている。実際水分量が増えることにより、生活にどのような影響があるかを明らかにしようと考えた。	吉岡 桂佑	医療法人・社会福祉法人 真誠 会 介護老人福祉施設 ピースポー ト	亀澤 正子 吉岡 宏
12	【第2分科会】 高齢者福祉 (施設系B)	⑫	2階 K-206	13:00～ 13:20	「誤薬0への取り組み ～ヒューマンエラー対策に よる成果～」	本研究では、看護師会でヒューマンエラーを起こす要因の分析を行い、問題を解決するために投薬マニュアルの見直しを行い取り組むことで、誤薬事故の発生が減少したことについて明らかにする。	山本 和恵	社福) 賛幸会 特別養護老人ホームのではま ゆう	
13	【第2分科会】 高齢者福祉 (施設系B)	⑬	2階 K-206	13:20～ 13:40	多職種による褥瘡治療まで のケア	褥瘡のある利用者の中には完全な治癒が難しく、改善と悪化を繰り返す場合もある。A氏は平成26年4月に当施設入所後仙骨部に1.0×0.5cmⅡ度の褥瘡ができ、医師に難治性と診断された。フロアの看護師や担当介護士が中心となって様々な処置や対応を行ってきたが、約2年の間皮膚の状態は良くなったり悪くなったりを繰り返していた。褥瘡は様々な要因が重なって起こるものであり、各専門職との更なる連携が必要だと感じた。	米田 有佳里	社福) 敬仁会 介護老人保健施設ル・サンテリ オン	松本 翼 尾嶋 友美 北村 浩司 村上 伸子

No.	分野	分野 No.	分科会場	発表時間	発表テーマ	発表要旨	研究代表者 氏名	研究代表者 所属機関・団体	共同研究者
14	【第3分科会】 高齢者福祉 (在宅系)	①	2階 K-205	10:30～ 10:50	「ふれあいの先に見えたもの ～子どもが高齢者の心を動かした!～」	当施設は平成28年1月に機能訓練型のデイサービス（通常規模）として開設されたが、同法人の保育園の新築移転に伴い保育園と同一建屋で建設された幼老複合施設である。 初年度は定期的な行事での交流を行ったが、職員の中に「環境を活かし生活の中に子どもの声や姿があり、一緒に遊び同じ空間で自然に過ごせる日常的なふれあいを目指したい」という気持ちが大きくなった。感染症や転倒のリスクなど解決すべき課題も多くあったが、保育園と共に対策を考え、職員全員で取り組んだ結果、認知症利用者の行動の変化や、認知症状のない利用者の自宅での生活の変化が見られた。	宮脇 真美	社福) 鳥取福祉会 アクティブ津ノ井	谷尾 美貴恵 山名 紀子
15	【第3分科会】 高齢者福祉 (在宅系)	②	2階 K-205	10:50～ 11:10	レクリエーション改革 ～いきいきデイサービスを 目指して～	これまで同じような内容の繰り返しとなりっていた当デイサービスのレクリエーションを見直す為、利用者や家族の思いや意見を伺った。寄せられた情報を基にレクリエーションを実践したところ、参加者も増え、機能の維持、向上の期待ができるようになってきている。	衣笠 朋子	社福) あすなる会 岩井あすなるデイサービスセン ター	岡野 隆也 保坂 美智子 小林 江利子
16	【第3分科会】 高齢者福祉 (在宅系)	③	2階 K-205	11:10～ 11:30	介護予防普及啓発活動 ～手品でつながる出前講座 の実際～	平成26年に鳥取市の62か所ある公民館を対象に、「地域と共に生きる幸せづくり教室」と題して出前講座を始めた。21種類のプログラムのうち、マジックショーは人気があり、笑いと元気を人々に届け続けている。その活動の実際を報告する。	福本 大輔	社福) こうほうえん デイサービスセンターいなば幸 朋苑	
17	【第3分科会】 高齢者福祉 (在宅系)	④	2階 K-205	11:30～ 11:50	鳥取市の「認知症初期集中 支援チーム」 ～活動実績～	鳥取市では平成29年から認知症の人及びその家族を訪問し、アセスメント、家族支援等を包括的・集中的（おおむね6か月）に行い、自立生活をサポートし、医療やケアチームに引き継いでいくという「認知症初期集中支援チーム」が活動を始めている。今回はその実績について報告する。	岸 清志	社福) こうほうえん にしまち診療所悠々	
18	【第3分科会】 高齢者福祉 (在宅系)	⑤	2階 K-205	11:50～ 12:10	「安全・快適な入浴を目指 して ～脱衣場での転倒事故ゼロ への取り組み～」	入浴現場で発生する転倒事故について、事故の原因分析や業務の見直しをするために職員間でカンファレンスをおこない、対策に取り組むことで転倒事故発生件数がゼロ件になったことについて明らかにする。	山根 まゆみ	社福) 賛幸会 はまゆうデイサービスセンター	門脇 敦

No.	分野	分野No.	分科会場	発表時間	発表テーマ	発表要旨	研究代表者氏名	研究代表者所属機関・団体	共同研究者
19	【第4分科会】 障がい児・者福祉	①	2階 K-202	10:30～ 10:50	地域移行支援事業が利用される要因とは～精神保健福祉士の関わりに関する意識調査から～	県西部圏域での制度利用件数も少ない中、国が進める「地域移行支援事業」を、果たして地域事業所や医療機関において、どこまで考え、取り組もうとしているのか疑問であったことから、事業を利用した地域移行が進むための安心要因について明らかにするため、精神保健福祉士（鳥取県精神保健福祉士会会員）にアンケート調査を行った。	竹崎 淳哉	鳥取県精神保健福祉士会	廣江 仁 近藤 健 吉川 敦 土川 泰 三宅 英 津川 行 野津 航 山脇 里 岩本 徳 田中 悦 三島 史 多田 智 小笹 子
20	【第4分科会】 障がい児・者福祉	②	2階 K-202	10:50～ 11:10	私の想いを受けとめて～意思決定支援の実践～	地域と関わりを持った生活を希望するY様だが、暴力行為等の気になる行動があり実現が困難な状況にある。そこで気になる行動の検証を行ない、気になる行動は承認欲求不足からのアピールを目的とした行動ではないかと仮説を立てる。そして承認欲求を満たす為に意思決定支援を基盤に支援を行う。 支援の結果、気になる行動の減少に伴いY様の希望であった地域と関わりを持った生活を少しずつ実現することができた。 意思決定支援を通してご利用者にどのような変化があるのか、またどのような問題点が生じたかを検証する。	山本 康平	社福) あすなる会 松の聖母学園	高橋 知久
21	【第4分科会】 障がい児・者福祉	③	2階 K-202	11:10～ 11:30	苦手な感覚と暮らすという事～コミュニケーションの方法で生活は変わる～	苦手な感覚が生活の中に多くある自閉症スペクトラム症の利用者様への支援事例を通し、苦手な感覚とどのように付き合っていくのかを考える。行動の意味や、感覚の過敏性を考えた時、コミュニケーション支援の大切さが見えた。将来の生活を見据えた時、利用者様が今できる事、私たちが今できる事を考え、チームで取り組んだ実践報告。	市村 直子	社福) 敬仁会館 障がい者支援施設 敬仁会館	西村 恵美
22	【第4分科会】 障がい児・者福祉	④	2階 K-202	11:30～ 11:50	「精神障がい者家族会「汐さいの会」の活動をおしえて」	精神障がい者家族会「汐さいの会」は、「精神障がい者や家族が安心して暮らせるために」という目標を掲げ、仲間とおしの絆を深めたり、当事者の障がいに対する理解を深める活動と更には地域の理解を広げる活動と居場所づくりなどを実施している。活動を振り返るなかで、今後の課題として関係機関や各団体と連携し、地域包括システムの構築について検討する必要がある。	松本 絹子	鳥取市西地域精神障害者家族会 「汐さいの会」	
23	【第4分科会】 障がい児・者福祉	⑤	2階 K-202	11:50～ 12:10	「精神障がい者や家族が安心して暮らすまちづくり」	平成28年2月に鳥取市西地域精神障がい者や家族が安心して暮らすための連絡会「鳥取市西地域つながる会」を発足し「精神障がい者やその家族が安心して暮らすまちづくり」という思いを共有し、精神障がい者や家族に関わる関係機関や応援者がつながり、地域特性を考慮しながら具体的な取り組みを始めている。今回、「鳥取市西地域つながる会」の活動をまとめ、今後の課題に向けての推進について検討したい。	山田 節子	鳥取市西地域精神障害者と家族会が安心して暮らせるための連絡会「つながる会」	

No.	分野	分野 No.	分科会場	発表時間	発表テーマ	発表要旨	研究代表者 氏名	研究代表者 所属機関・団体	共同研究者
24	【第5分科会】 児童福祉	①	2階 K-203	10:30～ 10:50	遊びきる子どもをめざして～初任・初級保育士研修会を通して子どものための保育を考える～	青年部では、育み協会の理念に基づき未来の保育を背負う初任・初級保育士の育成をし、鳥取県全体の保育の向上を目指し活動しています。昨今の社会変化に伴い、保育・教育の指針が改訂されました。今まで以上に保育者は質の高い保育を展開するため資質向上や専門性の向上を図るよう努め、保育初任者も同様に求められています。その保育士一人ひとりが保育所保育指針の改正をどう捉えているのか、また子どものための保育とは一体どういうことなのか明確にし、人材育成に生かしていきたい。	柏木 克仁	鳥取県子ども家庭育み協会 青年部	和田 知之 佐藤 比登志 松本 八千代 河合 光枝 新 茂雄 山本 大路 長本 浩平 村岡 重樹 徳田 憲生 西村 洋 西村 孝太
25	【第5分科会】 児童福祉	②	2階 K-203	10:50～ 11:10	自然保育で育まれるもの～自然体験活動を通して見えた子どもと保護者の変化～	「自然保育」の実践を通して、子どもの心情・意欲・態度を育成し「生きる力」を育むこと、また、その成長を通して保護者の意識を子どもや保育園に向けてもらうことを目的とし、保育実践や保護者へのアンケート調査、保護者と共に自然体験活動を行った。その取り組みを通して見えてきた成果や課題を示す。	安部 未歩	社福) あすなる会 白兔保育園	景山 寛子 富吉 由美子 船本 輝美
26	【第5分科会】 児童福祉	③	2階 K-203	11:10～ 11:30	「運動遊びを通して、たくましい心と体づくり」～将来につながる体験を～	近年、子ども達の運動能力は低下していることが文部科学省の調査で実証されている。子ども達の健やかな身体の発達・育成のためには3歳からの体力づくりが必要と言われており、保育の現場で日常の遊びを通して、運動能力を高めるにはどうすれば良いかを考えた。まず保育者が運動の理論や指導法を習得し、日々の保育の中で指導していくうちに子ども達が運動の楽しさを知り、できた時の喜びや自信に繋がり主体的に遊ぶようになってきた。保護者からの理解を得ることや小学校との連携など、2年間取り組んできたことの成果と今後の課題を報告する。	渡辺 球太	社福) 福生会 三朝町立賀茂保育園	吉田 美奈 安達 由紀 造酒 ひとみ 倉持 美紀子
27	【第5分科会】 児童福祉	④	2階 K-203	11:30～ 11:50	「子どもの命を守る防災体制のあり方」～児童養護施設の現場から～	平成30年9月30日台風24号により、当施設は床上浸水の被害を被った。避難場所2ヶ所の選択はあったが、今回は、家屋崩壊の恐れはないと判断し、2階への垂直避難とした。今後は異常気象に対して、より安全に子どもを守る避難の仕方を考えなければならない。今回の体験を述べながら、防災に対する啓発になれば幸いである。	吉田 学	社福) 青谷福祉会 児童養護施設 青谷こども学園	水砂 美喜代

No.	分野	分野 No.	分科会場	発表時間	発表テーマ	発表要旨	研究代表者 氏名	研究代表者 所属機関・団体	共同研究者
28	【第6分科会】 地域福祉	①	2階 K-204	10:30～ 10:50	『対人援助の作法』で強靱かつ持続可能な相互扶助を目指して	本研究では、対人援助に通底する作法とは何かを探索的に見出し、その作法に基づいたテキストおよび研修プログラムを作成し、その有効性について検討した。チームで検討して作成した内容は、『対人援助の作法』というテキストとして結実し、鳥取県内3か所で延べ296名の参加者に対して研修を実施した。『対人援助の作法』を習得するための研修プログラムは、参加者の満足度および有用感ともに高かった。	竹田 伸也	鳥取大学大学院医学系研究科	地域で支える仕組み研究会一同
29	【第6分科会】 地域福祉	②	2階 K-204	10:50～ 11:10	「地域を実践基盤に当事者と関わり合う学習の効果」	八頭町各地区で組織されている住民主体による小地域福祉活動組織「まちづくり委員会」で平成28年より鳥取市医療看護専門学校2年生の老年看護学1地域実習（以下地域実習と表記）を受け入れている。この地域実習により、地域と実習生の双方に意識や活動の変化が起こっている。実習場面の振り返りやアンケート・地域活動内容の変化を分析し、当事者と関わり合う学習の効果について検証する。	藤田 亮二	社福）八頭町社会福祉協議会	山本 誠
30	【第6分科会】 地域福祉	③	2階 K-204	11:10～ 11:30	住み慣れた地域で「向こう三軒両隣」 境港市上道地区の取組み	県社協より受託した「あったかハートおたがいさま事業」に取り組んできた地域の助け合いシステムづくりについて発表する。	加藤 弘晃	社福）境港市社会福祉協議会	志賀 智子 前田 忠彦
31	【第6分科会】 地域福祉	④	2階 K-204	11:30～ 11:50	「あったかハート♥おたがいさま事業」から始まる支え愛の町づくり	「あったかハート♥おたがいさま事業」の3年間の取り組みや成果、そこから明らかになった課題・今後の展望などについて発表する。	橋谷 久美	社福）江府町社会福祉協議会	
32	【第6分科会】 地域福祉	⑤	2階 K-204	11:50～ 12:10	地域での見守りや支え合いを 広げる取り組みについて	「あったか♥おたがいさま事業」の取り組み ・支え愛連絡会、支え合い講習会、見守り連絡会、聴き取り調査の実施 ・地域内の連携強化・住民主体の生活支援立ち上げ ・見守り体制の強化・地域共生社会の実現に向けた	宮地 栄子	社福）北栄町社会福祉協議会	
33	【第6分科会】 地域福祉	⑥	2階 K-204	13:00～ 13:20	生活習慣病と向き合う地域 を目指して ～健康づくりは絆づくり 地域づくり～	1 町民の生活実態を調査し分析する 2 集落ごとに出前報告会を実施し問題点を明らかにする 3 町民の努力目標をこしらえてそれに沿った事業を実施する 4 広報紙「健康づくりはみんなの手で」を発行して啓発活動をする 5 地域づくり絆づくりを目指した事業を模索実施する	高原 繁	宝木地区まちづくり協議会 宝木地区民の健康を考える会推進委員会	本部 澄 本部 享司 森 浩美 中宇地 康子 ほか16名
34	【第6分科会】 その他社会福祉領域	⑦	2階 K-204	13:20～ 13:40	ニート・引きこもり等の若者支援	我が国で170万人もいるというニート・引きこもりの若者が社会的に大きな課題となる中、平成30年5月より12月までの間ではあるが、取り組んだ支援活動について大きな成果を得たので報告すると共に、見えてきた課題についても考察する。	坂本昭文	社福）伯耆の国	山野 良夫 勝部 秀美 西岡 都 国本 英子

ポスター発表（会場：鳥取看護大学1階ロビー）

No.	分野	分野No.	会場	発表時間	発表テーマ	発表要旨	研究代表者氏名	研究代表者所属機関・団体	共同研究者
1	ポスター発表	1	ロビー	10:30～ 15:00	社会福祉士の仕事内容についての社会的認知度をインターネットを利用したアンケートから	本研究の目的は、一般市民レベルにおける社会福祉士の仕事内容についての認知度の状況を把握することであった。 データ収集は、全国を対象にインターネットを利用したアンケートを行い、900件の回答を得た。 倫理的配慮としては、一般社団法人日本社会福祉学会の研究倫理指針に準じて研究を行った。 結果として、社会福祉士の仕事内容についての社会的認知度は高くなく、この認知度は10年程前から向上していなかった。	梅谷 進康	桃山学院大学 社会学部	学校法人桃山学院 桃山学院大学 (梅谷ゼミ) 2017年度卒業生 岡駿平、梶亨太、國木雄文、澤田拓也、田口真太郎、竹元裕哉、田中修平、中谷友暉、伊藤咲、和田優稀、山本慧